

麒麟が挑む「AI研究員」：人間を置き換えない「伴走型AI」の正体

🦌 人間とAIの役割分担：共創する研究プロセス



人間

AIは仮説の「広がり」を、
人間は「妥当性」を担う。

AIが異分野融合や反論生成で探索範囲を広げ、
人間が科学的妥当性や倫理を判断します。



AIエージェント

議論と探索の履歴を
「組織の共創知」へ

個人の思考プロセスを
蓄積し、組織全体で再利
用可能な資産へと
変換します。



研究を分断させない
「伴走者」としての設計

単発の質問回答ではなく、仮説形
成から文書化まで一貫して研究
ワークフローを支援します。



成功への鍵と多角的なガバナンス



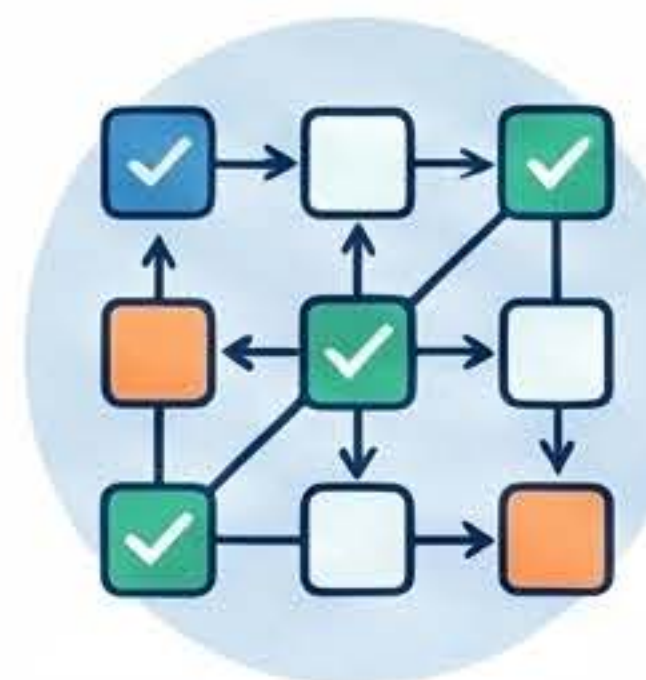
「創造性の均質化」を防ぐ
多様性の測定

AI利用で個人の成果が似通うリスク
があるため、仮説の多様性をKPIで
測定します。



人間が最終責任を負う
「Human-in-the-Loop」

原典確認、特許出願、実験の意思決
定には必ず人間の明示的な承認を必
須とします。



ハルシネーション（もっと
もらしい嘘）への徹底対策

AIが提示した出典の100%にリンク
を付与し、引用の实在率99%以上を
目指します。



導入時期

2025年5月

2025年7月

2026年

対象範囲
導入システム

国内全従業員（約1.5万人）
BuddyAI（全社的AIリテラシー向上）

研究・企画・マーケティングの一部
ChatGPT Enterprise（専門業務への活用）

一部研究部門
研究支援AIエージェント（研究プロセスの変革）